公表 事業所における自己評価結果

 事業所名
 URAURA稲生
 公表日
 令和7年2月25日

						公表日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	食堂・学習室等も状況に応じて活動ス ペースとして使用している	利用される方が快適に過ごせるよう、 設置物の配置や活動スペースの確保な どに努めていく		
環境・体制整	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		0%	法人内事業所とも連携を図り、送迎の 応援依頼等行っている	職員が休んだ場合でもバックアップ体 制が取れるよう、事業所内でも調整を 図っていく		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		40%	日頃より、利用者様にもわかりやすく 可視化や構造化を図っている	現在の利用者様の障害特性に合った環境ですが、利用者様に変化があれば一部バリアフリー化がされていない箇所の改善を行う		
備	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	感染対策として毎日消毒をしている。 利用者様自身で玩具などを選べるよう に配置している	継続して清潔で心地よく過ごせる環境 作りを継続してまいります		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	学習室やホットルームなども状況に応 じて使用している	個々の利用者様が落ち着いて過ごせる スペースの確保などに努めていく		
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	日々の職員間で支援向上のために問題 提起を 行い、改善している	ミーティングや職員会議、ISOの取り 組みなど全職員で業務改善に取り組ん でいく		
業	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設け ており、その内容を業務改善につなげているか。		0%	日々の利用の中でも意向を聞き取るよ うにしている	保護者様からいただたアンケートを元 に支援向上、業務改善に取り組んでい く		
務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に つなげているか。		20%	改善が必要なことは、その場で話し合 い業務改善している	意見を拾い上げ、幅広く改善につなげ ていく		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている か。	60%	40%	評価結果は改善に繋げている	評価結果を反映させ、改善に繋げていく		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で 研修を開催する機会が確保されているか。	80%	0%	研修等を受けたものがレポートを作成 し、会議などの機会で他の職員に水平 展開している	していくようにする		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	具体的かつ豊富な内容で作成している	支援プログラムを保護者様と共有し て、ご理解いただけるように努めてい く		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計 画を作成しているか。	100%	0%	計画相談事業所の担当者などからも情 報収集を図っている	利用者様・保護者様のニーズを聞き取り、支援計画に反映させていく		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者だけでなく、 個々の担当を設け、共有して検討を 行っている	全職員の意見を拾い上げ、常に最善を考慮していく		
適切	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援 が行われているか。		0%	活動のなかで、計画に沿った支援かを 共有しながら実施している	保護者様にもお伝えし、共有していく		
な支援の	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	80%	0%	ケース記録に様子を記録している	できる限り日々の様子の記録を漏れが ないよう注意を払っていく		
の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	支援目標や本人の役割も含め、明確に 掲げている	個々の利用者様の状況を鑑み、必要な 項目について、より具体的に示してい くようにする		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	常に情報収集するよう心掛けている	新しい案はないか情報収集に努め、利 用者様・保護者様にも聞き取りしてい く		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	季節行事・利用者ニーズなど反映している	利用者様・保護者様の要望等を確認し ながら、また利用者様の特性などを考 えながら対応していく		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放 課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	向き不向きや特性などをみながら1か 月ごとの活動計画は立ている	保護者様から体調なども確認し、状況 に応じて活動内容を変更できるように していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の 内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行ってい るか。	100%	0%	朝礼に加え、疑問に感じた時点ですぐ に確認するようにしている	変更があった際、すぐに伝達できるよう、職員間で意識を高めている。伝達漏れのないよう、今後も注意を払っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援 の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		0%	休みの職員へも必ず伝えるよう徹底し ている	緊急時等、LINEやメールなども使用しながら、伝達漏れのないよう徹底していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	写真や動画記録なども適宜使用している	できる限り日々の様子の記録を漏れが ないよう注意を払っていく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	中間評価、必要に応じた評価を実施している	定期的にモニタリングを実施している
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組 み合わせて支援を行っているか。		0%	利用者様の状況に応じた支援を行っている	全職員でガイドラインの総則の理解に 努めていく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決 定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	利用者様の自立度を向上する支援を実施している	特性上パターンかしやすい利用者様に も、選択の幅が広がる支援の工夫をし ていく
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		0%	児童発達支援管理責任者が、個々の担 当からの情報を共有し、参画している	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、 教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	60%	40%	より関係が強い八野生活介護センター と連携し、各関係機関とも体制をとれ ている	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	100%	0%	学校の下校時間などは保護者様より教 えてもらっている	学校から年間行事や時間の変更など適 宜連絡してもらうように努めている
関係	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	80%	20%	保護者様より聞き取りを行っている。 また、支援事業所様より文書でいただ くようにしている	ご家族や相談支援事業所から情報をいただくことが多く、今後も情報交換や情報共有に努めていく
機関や保	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所 等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等して いるか。	80%	0%	移行先の事業所等にも情報を伝えてい る	必要に応じて個人情報には十分留意し ながら、情報の提供を行うようにして いく。
味護者と	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	80%	20%	必要に応じて研修等受講し、機関から も助言等もらうようにしている。	担当者だけでなく、全職員が理解を深 めれるよう研修計画を立てていく
の連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	40%	20%		今のところ児童クラブ等との交流はないが、個人情報の観点からも障がい特性を前提とした交流には注意をしていく
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%		現在のところ、参加できていないが、 利用者支援等情報収集の為、機会があ れば参加していく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や 課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	LINEなどを積極的に活用したり、 また送迎時にお話ししたりしている	状況や課題について他の職員にも伝達 し、事業所全体で問題解決に取り組め るようにしていく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム (ペアレント・トレーニング等) や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		20%		ペアレントトレーニングの研修実施を 検討していく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	100%	0%	書面を用いながらわかりやすい言葉で 伝えている	変更があった際、漏れのないよう伝え ていく必要がある
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	保護者様より聞き取りを行っている	普段から保護者様の意向を把握するようにしていく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者様に説明を行い、同意の署名を いただいている	より具体的かつわかりやすく説明を行う
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	送迎時やLINEなど、ご家族の状況 に応じて対応している	事業所で返答が難しい時は法人や他の 機関に相談などする

保護者へ	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	定期的に保護者交流の場を設けるよう に企画をしている	今後、さらに保護者通しが悩みや相談ができるよう、交流会などを検討していく
への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するととも に、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応しているか。	100%	0%	事業所や法人内事業所の事例などを全 職員に水平展開できるようにしている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	LINEや機関紙や新聞などを定期的 に発行している	毎月、新聞を発行し、活動の様子や施設の動きなどを伝えるようにし、全利用者様へお伝えできるように今後も努める。
	43	障害のあることもや保護者との意思の疎涌や情報伝達のための配慮		0%	職員間でも肖像権一覧などを把握する よう周知している	施設内だけでなく、車両も含めて情報 漏洩に注意していく
	44			0%	LINEや電話、SNSなど様々な ツールに対し配慮をしている	お仕事や家の状況などに応じてコミュ ニケーション方法を使い分けていく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を 図っているか。	100%	0%		法人としては行事のまつりなどを開催 して、地域交流を図っている
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するととも に、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%		マニュアルなどの見直しを行い、マ ニュアル研修や関係者へ周知できるよ うにしていく
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、 定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	80%	20%	BCPに沿って防災訓練で様々な事象 を想定て取り組んでいる	利用者様に体験の機会をつくったり、 保護者様に緊急連絡の機会を行ってい きたい
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し ているか。	80%	0%	定期的にアセスメントなどで確認する ようにしている	常に情報の更新をかけていく必要があ る
非常	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応 がされているか。	80%	0%	新規契約の際や、アセスメントなどで 確認するようにしている	現在、アレルギー対応の利用者様はいないが、いつでも対応できるよう準備しておく
時等の	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%		ヒヤリハットなどを分析し改善してい く必要がある
対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全 計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%		保護者様と連携が図れる機会を行って いきたい
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について 検討をしているか。	100%	0%	事業所内で起こった事例を法人内でも 問題提起している	法人内事業所で有効性が確認された事 例を、水平展開を行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を しているか。	100%	0%	虐待防止に関する動画を視聴し、研修 をしている	定期的な研修を実施し、検討会などを 行う必要がある
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に 決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放 課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%		契約時に説明できるように努めてい く。また、書面への記載も検討してい く。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 URAURA稲生

公表日 令和7年2月25日

利用児童数

回収数

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	79%	11%	0%	11%	毎日どのぐらいの利用者がいるの か分からないため	利用者様の様子をお伝えしていく なかで、お知らせしてまいります
環境・	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	68%	11%	0%	21%		適切です。専門職による活動や音 楽療法等の講師による活動も実施 しております
体制整備	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	95%	0%	0%	5%		一部バリアフリー化がされていない箇所もありますが、現在の利用者様の障害特性に合った環境としては適切です
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		感染対策を踏まえ、清潔で心地よ く過ごせる環境にしております。
	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		利用者様の特性や強みに応じ、必要に応じて専門職による活動も実施しております
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		支援プログラムを共有して、ご理 解いただけるようにしてまいりま す
適切な	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。		0%	0%	0%	一部考えがちがうなと思う指導員 さんもいます。	保護者様と一緒に利用者様の特性 や強み、保護者様の意向などを確認し、全職員が共通して支援して いくようにします
な支援の提供	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思います か。	84%	11%	0%	5%		個々の利用者様の状況を鑑み、必要な項目について、より具体的に 示していくようにします
124	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	95%	0%	5%	0%		更新時には説明をさせていただい ております
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	89%	5%	0%	5%		季節に応じた行事や外出支援など 様々な活動を取り入れています
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	47%	11%	11%	32%		今のところ、機会は少ないです が、イベントやリモートなども検 討していきます
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につい て丁寧な説明がありましたか。	95%	0%	5%	0%	変更がある度、丁寧にお知らせし ていただいている。	書面やLINEを用い、口頭でも 説明を行ってまいります
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	95%	5%	0%	0%		より具体的かつわかりやすく説明 を行ってまいります
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	74%	5%	16%	5%		今のところ、機会は少ないですが、定期的に開催するよう検討していきます
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	89%	0%	11%	0%	ゆっくりお話できる機会があればいいなと思いますが、なかなか時間もなく難しい。	送迎時やお迎え時の際、またLI NEなどでお伝えするようにして いきます。今後もできる限りご理 解していただきますよう努めてま いります
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	74%	11%	11%	5%	質問等には、真摯に応えていただ ける。	できる限り話し合いの機会をつく るよう努めてまいります
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	79%	16%	5%	0%		利用者様保護者様に寄り添った支援ができるように努めてまいります。

保護者への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	26%	47%	16%	11%		・きょうだい向けのイベントも今 後開催できるよう検討してまいり
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	84%	5%	0%	11%		苦情などが発生した場合に即座に 対応する体制は整備しておりま す。相談や申入れについても普段 より職員間で情報共有し、迅速か つ適切な対応を努めます
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると 思いますか。	95%	5%	0%	0%		L I N E や連絡帳などで情報発信 したり、送迎時にお伝えしたりし ています
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	100%	0%	0%	0%		機関紙や新聞などを定期的に発行し、自己評価表は法人のHPで公表し、皆様にみてもらえるようにしています
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		写真の掲載に関しては、保護者様 のご了承のもと実施しています。 情報漏洩などないよう、細心の注 意を払っています。
非常	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%	0%	0%	0%		現状に沿ったマニュアルを保護者様に見ていただき、ご説明できるよう努めます。また、訓練の様子も発信などしていくよう努めてまいります
時等の	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓 練が行われていますか。	89%	0%	0%	11%		年間計画を立て防災訓練を実施しており、LINEや新聞などでお伝えしております。
対応	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、 安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	95%	0%	0%	5%		安全計画に基づき、支援を実施しております
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	95%	5%	0%	0%		重要事項説明書に基づき、速やか に対応する体制は整備しておりま す。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	89%	5%	5%	0%	楽しく通わせていただいてます。	安心してご利用いただけるよう、 備えを怠らないよう努めてまいり ます。
満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	84%	11%	5%	0%		利用者様の皆様に楽しく通っていただけるよう、様々な企画を考えていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	95%	0%	5%	0%	実際に活動をしている所を見れる 機会があると嬉しいです。	支援内容を充実させ、また、実際 の活動の様子を見れる機会を提供 していくよう努めてまいります。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス URAURA稲生						
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日 ~ 令和7年1月27日						
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 19				
○従業者評価実施期間		令和7年1月20日	~	令和7年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5			
○事業者向け自己評価表作成日		令和7年2月22日					

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムが充実していること	・本人支援の5領域に対し、個々の利用者様の二一 ズに応じた様々な活動を取り組み、必要に応じて専 門職による活動も取り組み ・また、季節に応じた外出行事も幅広く取り組み	支援プログラムや放課後等デイサービス計画に 沿った活動を実施しながら、説明をしてよりわか りやすくご理解していただく取り組み
2	保護者様との情報伝達していること	・LINEなどを活用し、普段の様子を写真でより 伝わりやすく伝達する取り組み ・定期的に新聞や機関紙を発行する取り組み、HP で公表する取り組み	定期的な保護者様との交流をすることにより、保 護者様同士の情報交換の場を提供して、保護者様 の悩みや不安を解消していただく取り組み
3	法人内で多様な事業展開をしていること	・マニュアルなど多様なノウハウの共有する取り組み ・関係機関との連携先が多数あり、多様な情報収集 と有効事例の水平展開を行う取り組み ・大規模な行事開催や地域連携する活動などの取り 組み	様々な情報を有効に取り入れ、事業所の改善や職 員の質の向上につながる取り組み

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	受け入れできる利用者様の層が限られていること	・集団活動を多く取り入れており、多様な利用者層に対応できていない ・地域校の送迎対応に限りがあり、受け入れ可能な 学校を増やせない	化などを検討し、多様なニーズに対してより個々
2	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他のこともと活動する機会が少ないこと	放課後児童クラブなどを併用している利用者様が少なく、連携できる関係機関との交流がない為	障害者相談支援事業所や児童発達支援センターな どとの連携を強化し、地域に対しての情報交換を する場へ参画する取り組み

事業所名 放課後等デイサービス URAURA稲生

支援プログラム

作成日

令和 7 年

2 月

14 日

法人(事業所)理念 親亡き後の「一生涯支援」の実現及び利用者の潜在能力を最大限に発揮できる「自己実現」(達成感)の実施)実施			
	支援方針	特別支援学校や日々の支援を通	寺別支援学校や特別支援学級に通われているお子様の将来の自立に向けた支援をいたします。経験豊富なスタッフが一人ひとりの特性に合わせた支援を行います。 日々の支援を通して、お子様たちの"気づき"や成長をご家族と共有していきます。お子様たちに寄り添い、のびのび過ごせる環境を作ります。								
	営業時間		10 時	<mark>30</mark> 分から	19 時	00 分まで	送迎実施の有無		あり なし		
							支 援 内 容				
○健康状態の把握(来所時の検温・視診) ○健康の増進(クッキングをすることで食育) 健康・生活 ○基本的生活スキルの獲得(手洗い等視覚による支援、看護師による咳エチケット等のお話し) ○構造化等により生活環境を整える(カームダウンスペースの提供)											
	運動・感覚	月1回理学療	○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上(ラジオ体操、動画を見ながらのストレッチ、サーキットトレーニング、スポーツインストラクターによる運動教室(不定期)、 月1回理学療法士によるセッション) ○保有する感覚の活用(月1回音楽療法のセッション)								
本人支援		〇知覚からの行 〇認知や行動の	〇知覚からの行動(音カルタ等聴覚の機能を重視した支援、一日のスケジュールを貼ることで視覚の機能を重視した支援) 〇認知や行動の手掛かりとなる概念の形成(レゴブロックによる空間認知、ダンボール空き箱等の創作活動等)								
3.2	言語	○言語の形成と ○人との相互作	〇言語の形成と活用(絵カードを使った支援) 〇人との相互作用によるコミュニケーションの獲得(集団活動、終わりの会での活動の振り返り、伝言ゲーム、しりとりゲーム)								
	人間関係 社会性	○模範行動の支援(ごっこあそび、見立てあそび) ○一人あそびから共同あそびへの支援(だるまさんが転んだ、転がしドッチ、ケイドロ等) ○イベント等を通した地域との交流(森まつりの参加、スポーツフェア等)									
	家族支援	○家族からの相談に対しての助言等 ○写真等を送り活動を伝える					移行支援		〇学校での様子を聞き、共有しあう 〇学童と併行利用している場合における共有の連携		
	地域支援・地域連携	支援会議を開き	・、支援の方向	 性を統一させる			職員の質の向上		〇法人内他事業所との情報共有と有効性の水平展開 〇各種研修への参加と研修報告による共有		
	主な行事等		あそび 魚のつかみどり	BBQ 水族館	秋の遠足 もくもく	(サーキット) ファーム		フリスマ ドーリン	マス会 雪あそび 月1~2回 ッグ大会 進級卒業旅行(レゴランド) 調理実習		